

3 命を守る訓練指導事例

- (1) 授業中 小学校
- (2) 授業中 特別支援学校
- (3) 休み時間 小学校
- (4) 休み時間 中学校
- (5) 休み時間 特別支援学校
- (6) 登校中 小学校
- (7) 始業前 高等学校
- (8) 朝の会 特別支援学校
- (9) 掃除時間中 小学校
- (10) スクールバス乗車中 特別支援学校
- (11) 小・中学校合同
- (12) 小学校・地域合同



1 単元名

「命を守る訓練」

2 ねらい

- 地震が発生したときに身を守る行動をとることができる。
- 地震が発生した際に発生する危険を考えることができる。
- 地震に対する関心を深める。

3 指導計画

(1) 事前指導

- 地震が起きたら、「あおあし」(※)を守り、防災ずきんをかぶって机の下などに避難し、身の安全を確保する。

※「あおあし」とは、地震の時のための本校の合い言葉で、「あたまをまもって、おちついて、あんぜんなばしよで、しゃがむ」という意味。

(2) 本時の指導

- ①緊急地震速報を流す。
- ②サイレン3回後「地震発生。先生の指示に従って、あおあしを守って身の安全を守りなさい」
- ③教室で自分がとった行動や地震が発生したときに予想される被害等について交流する。
- ④起震車体験をし、実際の揺れの中での対応を体験する。

(3) 事後指導

- 「あおあし」を意識して、避難行動することができたか。
 - ・地震の時は、頭を守って机の下に入る。

【従来の避難訓練からの改善点】

((従来の訓練))

①地震発生 → ②机の下に身を隠す → ③火災発生 → ④運動場へ避難

■問題点 【地震直後の火災発生の確率はそれほど高いのか。】

- ・ガスは地震の際、自動停止する仕組みがある。
- ・現在の学校は、地震後にすぐ火災が発生しないような対応がされていることがほとんどである。

- 【改善点】
- ・地震に対する訓練と火災に対する訓練を分けて行う。
 - ・現実に発生が予想されることへの対応を訓練する。

4 本時の展開

学習内容・学習活動	教師の指導・評価	資料等
1 通常授業を行う。	通常の授業を進める。	
2 緊急地震速報を聞き避難行動をとる。 ・「あおあし」を守って、防災ずきんをかぶり、机の下などに避難する。	緊急地震速報を流す。 地域の防災士の方に行動の様子を見ていただく。	地震情報受信機
3 地震発生により、避難行動をとる。 ・そのまま避難態勢をとる。 ・机の下に頭を入れ、机の足をしっかり持つ。 ・危険な場所にいる児童は、安全な場所に移動する。	「地震発生。先生の指示に従って、あおあしを守って身の安全を守りなさい。」出口を確保し、窓ガラスから離れるように指示をする。	ハンドマイク
4 起震車体験をする。 ・実際の地震の揺れの中で、自分の身を守ることを大変さを体験する。	揺れの中でこれまで身に付けた動きがとれるように指示をする。	起震車 (消防署)
5 まとめの会を行う。 ・感想発表をする。 ・地震の際、実際にどのような危険が発生するかを交流する。 ・地域の防災士の方から話を聞く。	実際の地震の際に、現実的に何が起こるかを考えさせる。	

5 評価規準

- 地震のときは、「あおあし」を守って、身の安全を確保している。
- 実際の地震の際に発生する危険について考えている。

1 単元名

「命を守る訓練（授業時間中）」

※南海トラフ大地震（震度6弱）からの火災発生及び停電を想定した訓練

2 ねらい

- 地震発生（緊急地震速報）時におけるシェイクアウト（安全行動）が適切にできる。
- 火災発生時における伝達と、安全な避難が迅速にできる。
- 自衛防災組織での役割を実務的に行うことで課題を見つけ改善に努めることができる。
- 訓練を通して、実場面を想定した対応について検討し、防災意識を高めることができる。

3 指導計画

（1）事前指導

- 各クラス，学年，学部による授業，朝の会，帰りの会による指導。

（2）本時の指導

- ①地震発生時におけるシェイクアウト（安全行動）の確認。
- ②安全な避難の方法と経路の確認。（指示がなくても担任及び周辺職員の指示で行動。）
- ③自衛防災班（本校の組織）における役割の実践行動。
- ④防災士による総合指導。見直し。

（3）事後指導

- 訓練の反省や課題，児童生徒の状態を考慮した，各クラス，学年，学部による防災教育の確認。授業の実践。

4 本時の展開

学習内容・学習活動	教師の指導・評価	資料等
○緊急地震速報 ♪ピロン、ポロン大きな揺れに注意してください！ →地震模擬音（ガサガサ・・・） ○地震発生（緊急地震速報）時のシェイクアウトの実施 ・ドロップ（低く！） ・カバ―（首・頭を守る！） ・ホールド・オン（そのまま待つ！3分間） ○火災警報機の発動 ・緊急放送（自動）での火災のおおよその場所の情報伝達。 （〇〇棟，〇階で火災が発生しました。） ○避難開始 ・避難経路を確認した上での避難の指示及び避難の開始。	・児童生徒への行動の指示および徹底を促す。 ・地震でできない児童生徒への介助，対応をする。 ※火災場所の指標を示す。 ・火災発生場所に近い職員は，「火事です！」と伝達。防火扉の対応。 ・最終避難職員は，残留児童生徒の確認（声をかけながら）を行いながら避難する。	・緊急地震速報受信機の活用（訓練放送） ・火災警報機の作動 ・火災場所の指標を準備。

○避難場所での集合・点呼 ・各学部学年毎に児童生徒及び職員の点呼を行い本部へ報告・掌握。 ◇自衛防災班の集合（各班毎） ・救護班・・・救護場所設置 ・搬出班・・・持ち出し確認 ・警備班・・・巡視準備 ・搜索班（学部主事を中心に設置） ◆残留生徒ありの情報 ・最終目撃場所と予測場所を中心に搜索開始。 →発見報告。 搜索人員の点呼で無事を確認。	・児童生徒を整列させ、点呼を行い、学部主事、本部の順に報告を迅速に行う。 ・自衛防災班、各班長の指示での集合分担の指示を本部に受ける。 ・2人ペアでの特定場所での搜索を行う。 （一度探す度に本部へ戻る。）	・点呼名簿 ・自衛防災班指標 ・搜索場所指標
○全情報の本部掌握。 ・安否状況、自衛防災組織の掌握。 ○全児童生徒、職員の無事を確認。 ○学校長の総評、防災担当の話。 ○警備による校舎内外の安全を確認。 ○解散→通常の授業体制へ	・名簿での最終の確認を行う。 □ポイントを整理し、児童生徒へ評価をする。	

5 評価規準

- 緊急地震速報及び地震音にてその場所での安全を確保したシェイクアウトができる。（児童生徒）
- 火災発生時における職員間の伝達や安全な避難経路の判断、行動指示が適切にできる。（職員）
- 自衛防災班の役割を十分に理解し迅速な対応ができる。（職員）
- 実場面を想定した生徒の動きの確認や、今後の授業に活かすことができる課題を見つけようとしている。（職員）



1 単元名

「命を守る訓練」（休み時間に地震発生）

2 ねらい

○休み時間の急な地震発生において、自分自身で身の守り方を判断し、安全に避難する方法を身に付けることができる。

3 指導計画

（１）事前指導

○地震はいつ発生するか分からないので、万一休み時間等に発生した場合には、自分の判断で一次対応（身を守る）、二次対応（避難）をどのようにしたらよいかを理解する。

＜学級活動＞※訓練に近い朝の短学活の時間を活用する。

（２）本時の指導

○事前連絡なしの昼休み中に地震が発生した想定で「命を守る訓練」を実施し児童自らが一時対応（その場で身を守る）、二次対応（運動場への避難）などの「自分の命は自分で守る」行動力を高める。

＜命を守る訓練＞※全校行事としてに行う。

（３）事後指導

○地震発生時に「自分の命は自分で守る」行動が正しくできたか振り返る。

＜学級活動＞※休み時間中に行う

4 本時の展開

学習内容・学習活動	教師の指導・評価	資料等
1 事前指導 (1) 地震発生時の「自分の命は自分で守る」対応の仕方を確認する。 ◇1次対応 ・近くの「落ちてこない、倒れてこない、移動してこない場所」に退避し、身をかめ頭を守って、揺れが収まるのを待つ。 ◇2次対応 ・放送や先生の指示に従い、運動場の真ん中に避難する。 (2) 地震はいつ起こるか分からないことから、休み時間など子どもだけの状況	・今までの「命を守る訓練」を想起し、地震発生時の「自分の命は自分で守る」対応の仕方を確認する。 ・ものが「落ちてこない、倒れてこない、移動してこない」場所の確認 ・校舎内での移動の仕方、運動場に出たからの避難場所の確認 ・その時いる場所によって瞬時に「自分の命は自分で守	・今までの「命を守る訓練」の足跡

での「自分の命は自分で守る」対応の仕方を確認する。 ◇1次対応 ・とっさに「落ちてこない、倒れてこない、移動してこない」場所を見つけて退避する。 ◇2次対応 ・自分の教室ではない場所からの避難経路を確認する。 2 「命を守る訓練」 (1) 緊急地震放送「地震発生」 ◇1次対応 (2) 緊急放送「余震の恐れがあるため運動場への避難指示」 ◇2次対応 (3) 運動場へ避難完了 (4) 訓練の振り返り 3 事後指導 ・教室戻り、学級ごとに訓練の振り返りをする。	る」対応の仕方を判断する必要があることの確認 ・「落ちてこない、倒れてこない、移動してこない場所」を見つける視点の確認（落下物の有無、頭を守ることのできるものの例） ・校舎の位置によって望ましい避難経路が違ふことの確認 ・1次対応指示 ・2次対応指示 ・児童の安全確認 ・校舎等の安全確認 ・校長による全体評価 ・学級の児童の訓練の実態を自己評価や相互評価から把握し評価する。	・教室配置図 ・「緊急地震速報」の音源 ・緊急時避難名簿 ・計測時間の公表
--	---	--

5 評価規準

- 「落ちてこない、倒れてこない場所」（上からものが落ちてこない。横からものが倒れてこない。ものが移動してこない。）に素早く身を寄せて安全確保することができる。
- 安全に素早く避難できる経路を通過して運動場に避難することができる。
(低学年)・放送や近くにいる教師等の指示に従って適切な行動ができる。
(中学年)・放送や近くにいる教師等の指示に従うとともに、自らも適切な行動ができる。
(高学年)・放送や近くにいる教師等の指示を聞き、自ら安全な行動ができる。

6 その他

＜参考資料等＞

- 「災害から命を守るために」文部科学省・防災教育教材（H20.3）
- 「学校防災マニュアル（地震・津波災害）作成の手引き」文部科学省（H24.3）
- 「『生きる力』を育む防災教育の展開」文部科学省（H25.3）

1 単元名

「命を守る訓練（休み時間）」

2 ねらい

○地震、火災など予期せぬ事態に対して速やかに安全な経路を通して避難することを通して、命を守るために状況に応じて適切な判断をし、安全な行動をとることができる。

3 指導計画

（１）事前指導

- ①これまでの命を守る訓練で大切にしてきた内容を振り返り，確認する。
- ②「今月中に行う」など，おおまかな時期だけ伝えておく。
- ③「予告なし」，「放送による指示なし」，「火災発生」，「倒壊した障害物あり」という設定のもとで行うことを伝えておく。

（２）本時の指導

①初動

- 緊急地震速報が放送で流れたことをきっかけに，机の下にもぐって頭を隠すなどして防御姿勢をとる。
- 地震の音声が流れ終わったことをきっかけに，各自で状況判断して適切な避難経路を選ぶ。

②避難

- 運動場に避難する。
- 火災発生のために出た煙に近づかないように避難する。
- 防火扉が閉まっているところの向こう側の状況を確認して経路を判断する。
- 混雑を避けながら，適切なルートを考えて避難する。

③反省

- 避難後に全体会を行う。その中でグループを作って避難時に気をつけたこと，疑問に思ったことなどを話し合い，発表する。
- 教室に戻り，全体会の内容を踏まえて反省用紙に記入し，提出する。

（３）事後指導

- ①訓練の反省を記入，交流。
- ②集会，壁新聞（通信）発行による価値付け。

4 本時の展開

学習内容・活動		教師の指導・活動
14:00	・掃除時間の終了，5校時に向けて教室移動。	・生徒の近くにいる教師は「放送を聞け！」
14:01	◇緊急地震速報の音声を放送で流す。 姿勢を低くし，頭部を保護する。 ◇地震の音声を放送で流す。 窓，落下物から離れて音が収まるのを待つ。 地震の音声が鳴り止んだら避難開始。 ※近くに教師がいるとは限らないので，各自で判断して適切な行動をする。	・音が止んだら「避難」
14:03	・避難 スモークマシンにより煙が発生するので，発火場所に近づかない。 避難時は頭部を保護しながら，また，ハンカチ等で口鼻をおさえながら避難する。	・スモークマシンの操作（防火扉近く） ・生徒の避難する状況を観察しながら転倒者，けが人などに留意して最後尾につく
14:10	・避難場所に集合（各クラスごと） 点呼のために生活班ごとに集合，報告。	・点呼報告 教師の報告の声を生徒よりも大きくする
14:15	○避難し遅れた生徒の搜索（教師） 校長の命令→教頭の指示で搜索に当たる教師が移動する。 生徒は私語なしで搜索者が見つかるまでその場で待機する。	・真剣に搜索に向かう
14:25	・全体反省会 少人数グループの隊形になり，避難時に気をつけたこと，疑問に思ったことなどを話し合う。 話し合った内容を発表し，全体で考えを共有する。	・生徒の話し合い活動の援助
14:45	・各教室へ移動，振り返り記入 全体会で話し合った内容をもとに自己評価，感想，疑問点などについて書く。	・反省用紙の準備 回収

5 評価規準

○「予告なし」、「放送による指示なし」、「火災発生」、「倒壊した障害物あり」といった観点において、できた、まあまあできた、あまりできなかった、できていないといった選択肢から自己評価し、その理由を書くことができる。

○訓練そのものについての感想、また、疑問点などがあれば書き、フィードバックすることができる。

6 参考資料

(1) 振り返り用紙

○月○日 第○回 命を守る訓練を実施して 年 組 氏名			
◆実施の予告なし、放送なし、火災発生、障害物ありの状況で「自分は」適切に判断して避難することができたか。あてはまるところを○で囲み、その理由も書きましょう。			
できた	まあまあできた	あまりできていない	できなかった
その理由：			
◆実施した感想（自分たちの避難）		（先生たちの搜索訓練）	
◆気づいたこと、気になること、わからなかったこと、こうした方がいいのではないか など			

(2) 命を守る訓練確認事項 10 ヶ条 (例)

- ①いつ地震など災害がおこるかわからないので，訓練の日時は連絡しない。
- ②緊急地震速報の音声 flowed たら，安全を確保する。(机の下にかくれる，窓やロッカーなどから離れて頭を守って低い姿勢をとる，移動してくるものから離れるなど)
- ③地震の音が流れ，その音がやんだら揺れのおさまった合図。各自が適切に判断して避難を開始する。(先生たちはその場にいない可能性がある)
- ④近くにあるもので (なければ手のひらを下にして)，頭を守って避難する。
- ⑤大きな揺れのため，停電していることを想定する。放送は聞こえない。
- ⑥火事になると煙が発生する。防火扉が閉まっている可能性あり。煙の方向に行かないように適切に判断し，避難する。
- ⑦火災報知機のベルが鳴らない場合はハンドベルを鳴らして避難の合図をする。
- ⑧ハンカチで口を押さえながら避難する。
- ⑨避難本部は運動場中央が基本。雨天の場合は体育館。降っていなくても運動場がぬかるむ場合は防災広場へ。
- ⑩避難本部へは生活班ごとに集まるようにする。出席番号順や背の順でなくてよい。
学級委員は各班の人数を集約して確認し，担任の先生に報告する。担任の先生が不在の時は学年の先生に報告する。

1 単元名

「命を守る訓練（休み時間）」

2 ねらい

- (1) 緊急地震速報受信後の対応や避難経路の確認，指示に従って適切な避難行動をする。
- (2) 避難時の注意事項を理解し，安全に避難する。
- (3) 避難訓練や体験活動を通して，自分たちにできることや経験を生かした行動を考えることで防災意識を高める。

3 指導計画（3時間）

(1) 事前指導（1時間）

- 地震・火災発生時の安全行動について
- 避難時の注意事項について

(2) 本時の指導（1時間）

- 避難行動訓練
- 煙道体験
- 非常食試食体験

(3) 事後指導（1時間）

- 避難行動の反省
- 障がい者としての災害時の対応について

4 本時の展開

学習内容・学習活動	教師の指導・評価	資料等
(1) 避難活動 ①校内で緊急地震速報の放送を聞く。 ②身を隠したり，ドアを開けたりする。 ③地震が収まった後，指示に従い，グラウンドへ避難をする。	・放送を聞き，手話等を用いて状況説明を生徒へ通訳する。 ・状況からどのような行動をとるべきか留意点の確認を促す。 ◎自分の身を守る行動をとることができたか。 ・避難の放送指示を聞き，生徒へ避難誘導をする。 ・障害物のある廊下等をどのように通過して避難するか考えることを促す。 ◎集団を意識して避難することができたか。	・緊急地震速報受信機 ・障害物 ・生徒名簿（点呼確認用） ・拡声器

④避難後，確認点呼を行う。 (2) 避難状況について ①自衛消防隊長の話を聞く。 ②消防署の方の話を聞く。 ・煙道体験 ・非常食体験 ・まとめ ①各学級にて反省する。 ②校内に展示してある防災グッズの見学を行う。	・避難後，確認点呼を迅速に行う。 ・煙の危険性について説明し煙道での注意点を確認することを促す。 ◎煙の中での避難の方法を理解できたか。 ・非常食を試食し，避難後の不便な生活を想像することで，防災グッズの必要性について考えることを促す。 ・避難時の反省をすることで避難に対する意識を高める。 ・防災グッズを紹介することで実際の避難生活の想像をし，自分たちにできることを考えるように促す。	・煙発生装置 ・非常食 ・反省用紙 ・防災グッズ
---	---	--

5 評価規準

- 避難経路や指示に従って適切な避難行動をとることができる。
- 避難時の注意事項を理解し，安全に避難することができる。
- 避難訓練や体験活動を通して，自分たちにできることや経験を生かした行動を考えることで防災意識を高めようとしている。



1 単元名

「登校中に地震が起きたときの避難の仕方」

2 ねらい

○登校中に大地震が起きたことを想定し、「あおあし」を守って自分の身を守る訓練をする。

○5．6年生（中学年の班長・副班長）は防災マップを参考に低学年に声をかけ、1～4年生は高学年の声かけをよく聞いて安全な場所に避難する。

※「あおあし」とは、地震の時のための本校の合い言葉で、「あたまをまもって、おちついて、あんぜんなばしよで、しゃがむ」という意味。

3 指導計画

（1）事前指導

- ①5年生は、総合的な学習の時間に作った防災マップについて、自分たちの登校班の児童に危険な箇所や安全に避難できる場所を説明できるようにしておく。
- ②事前に登校班の班長会で、登校の途中に命を守る訓練をすることを知らせる。また、それぞれの登校班の5年生から防災マップの説明を受け危険な箇所の確認や安全に避難できる場所を確認し、自分も説明できるようにしておく。
- ③それぞれの登校班が全員で集まる時間を設け、登校班の班長や5年生から自分たちの登下校にかかわる防災マップの説明を聞く。
- ④防災マップの確認をするために、保護者や地区の方々にも協力していただいて、確認下校の指導を行う。帰る道筋で班長や5年生は班の児童に、もし地震が起きた時に危険である建物やブロック塀、電信柱などの場所を確認しながら下校する。また、何かあった時に避難できる場所も教えながら下校する。

（2）本時の指導

- ①登校中に、それぞれの地区担当の教師が大きな地震が来たことを伝えて、安全に避難するように指示する。
- ②交通安全に留意し、児童が安全にできたことを確認する。
- ③地震が収まったことを児童に伝えて、安全に登校するように指導する。

（3）事後指導

- ①朝の活動の時間に、振り返りの時間を設け、命を守るために安全に避難できたかどうかを反省し、振り返りカードに書く。
- ②振り返りカードを家に持ち帰り、家族にも登校中の「命を守る訓練」について知っていただき、感想を書いてもらう。

4 本時の展開

学習内容・学習活動	教師の指導・評価	資料等
1 登校班ごとにいつものように登校する。 2 担当の先生の合図で、「あおあし」を守って、安全な場所でしゃがむ。 - 高学年，班長副班長は下のような声かけをする。 「地震だよ。頭を守ってしゃがむよ。」 「〇〇の近くから離れるよ。」 - 低・中学年は，声かけをよく聞き安全な場所にしゃがんで身を守る。 3 避難行動をやめ，一番近い避難場所を班全員で確認する。 - 高学年は，避難場所を話す。 「ここは学校に近いので学校に行きます。」 「近くに集会所があるので，集会所に行き大人の人に話を聞きます。」 4 班長は全員の安否を確認し，登校を続ける。 5 朝の活動で，登校中の避難のしかたについて，振り返りをする。	7時40分頃に，登校班が通過する場所で待機する。 (事前に班長と打ち合わせておく) - 児童が通過地点に来たら大きな地震が来たことを伝える。 - 児童に避難の仕方を直接指示するのではなく，できていないときに声をかける。 - 交通安全などに十分注意する。 - 地震が収まったことを伝える。 - 一番近い避難場所を確認しいつものように登校する。 - 学校，家，集会所の中で一番近い場所で大人の指示を受けることを確認する。 - 登校を続けることを確認し学校にもどる。 - 教室で，登校中の避難のしかたについて，振り返りをする。	5年生が作った地区ごとの防災マップ 振り返りカード

5 評価規準

- 防災マップの説明を聞き，登下校の際に地震が起きた時，危険な箇所や安全な避難場所を理解している。
- 登校中に「命を守る訓練」をすることで，防災マップを使って教えてもらったことを生かし，危険な場所から離れて安全に避難することができる。

6 その他

- 5年生が作成した各地区の防災マップ
- 振り返りカード



1 単元名

「命を守る訓練（始業前）」

2 ねらい

- 生徒自身が周囲の状況を正確に把握し、場に応じた危険回避行動と迅速で安全な避難をすることができる。
- 生徒による点呼報告（集合・点呼・報告）ができる。
- 全教員が仮本部を立ち上げることができる。

3 指導計画

（１）事前指導

- ①これまでの訓練時の内容を中心とした日常の指導
 - 命を守る訓練の実施方法を理解させる。
 - 日頃からの災害などに備えた行動の在り方を考えさせる。
- ②実施１週間前頃の指導
 - 予告なしの訓練を実施することを伝え、緊急対応への意識をもたせる。

（２）本時の指導

- ①生徒の避難行動に関する指導
 - 訓練の内容を理解させる。
 - 迅速な避難の在り方を実践させる。
- ②安全の確保と点呼に関する指導
 - 自らの安全を確保する行動を確認させる。
 - お互いの安全及び避難を確認する手立てを工夫させる。
- ③緊急時の行動の振り返りに関する指導
 - 緊急時の行動の在り方を確認し、自己の行動を改善させる。
(防災意識向上シートの活用)

（３）事後指導

- ①訓練後の学校生活における指導
 - いつ、どこで災害が起こっても、自らの命を守る行動がとれるよう心と持ち物などの準備の必要性を知らせる。
- ②命を守るための具体策についての指導
 - 学校用非常用備蓄品や防災ずきんなどの備蓄を考えさせ、用意する意義を理解させる。

4 本時の展開

学習内容・学習活動	教師の指導・評価	資料等
1 緊急地震速報を聞き、その後の対応を考える。 2 現在、自分がいる場所の確認をし、安全に避難する方法を考える。 ・道路状況や周りの建物などに異常が無いかを確認する。 3 避難する。 ・頭部を守りながら、素早く安全な場所へ避難する。 4 避難後、自己の安全及び避難について報告する。 5 クラス員の状況を確認するなど、自らができる行動を工夫する。 6 訓練後、訓練の振り返りを防災意識向上シートに記入する。	・緊急地震速報の聞こえ具合などを確認する。(始業前であり、生徒の所在は様々な状況である。) ・安全を踏まえた避難行動を促す。 ・素早く、正確な安全確認をさせる。 ・自己の安全を確保するとともに、他を助ける行動を考えさせる。 ・一人でも行動できるよう、具体的な行動を考えさせる。	・教師用訓練要項 ・防災意識向上シート

5 評価規準

- 災害時の安全・迅速な避難について理解している。
- 頭部を保護するもの(防災ずきんなど)を活用することができる。
- 学習したことを家庭生活で応用しようとしている。

6 その他

【搬出物等】

- ・職員室にいる教員が搬出する：出席簿、災害時帰宅ルート調査票の搬出
- ・各教員が搬出する：メモ用紙、筆記具、ヘルメット、防災ずきん、毛布、担架、応急救護セット、AED、携帯電話
- ・警備班の教員は遅刻者の判断し、訓練終了まで校門付近で待機する。

【始業前の命を守る訓練の特徴】

- ・人員把握が難しく、点呼報告結果が刻々と変化する。
- ・様々な場所から避難してくるので、到着までに時間差がある。
- ・遅刻者や欠席者が誰か分からない。(全員そろったのかどうか分からない)

1 単元名

「命を守る訓練（朝の会）」

2 ねらい

○緊急地震速報が流れた時に、身の安全を考えて素早く机の下に隠れたり、頭や身体を抱えてしゃがみ込んだりと適切な初期対応をすることができる。

3 指導計画

(1) 事前指導

○前回の「ショートの命を守る訓練」で、物が落ちてこない、倒れてこない、移動してこない場所を探して避難することを確認している。

(2) 本時の指導

○朝の会の途中、緊急地震速報が流れた時に生徒が自分で考えながら身の安全を守る対応をすることができるかを見守り、初期対応が難しい生徒には言葉かけをして、全員が適切な対応をとれるようにする。

(3) 事後指導

○設置してあったビデオを見ながらどのような対応ができたか確認し、今後どうしていく必要があるかを考える。

4 本時の展開

学習内容・学習活動	教師の指導・評価	資料等
1 朝の会で挨拶をする。 緊急地震速報が流れる。 2 自分たちで考えながら初期対応や初期行動する。 ・机の下に隠れる ・頭を抱えながしゃがみ込む ・避難口を確保する 3 放送の指示を聞く。 4 ショートの命を守る訓練について振り返りをする。 物が落ちてこない、倒れてこない、移動してこない場所を考えて行動できたか。	・生徒がどのような対応をとるのか見守る。 ・行動に移せない生徒がいたら言葉かけをする。 ・どのような行動ができたか生徒に聞き、今後のよりよい初期対応について考えさせる。	・ビデオカメラ設置

5 評価規準

○緊急地震速報が流れた際に、物が落ちてこない、倒れてこない、移動してこない場所を探して対応するなど、自分から身の安全を守る初期対応をしたり、教師の言葉かけで行動に移したりしようとしている。

災害図上訓練 D I G

◆自助（自らの命は自ら守る!）～その命は、誰かを幸せにできる～ ◆共助（みんなの地域はみんなで守る!）



災害図上訓練D I G(ディグ、Disaster Imagination Game)は、1997年、当時三重県消防防災課に勤めていた平野昌氏と防衛庁防衛研究所に勤務していた小村隆史氏（現富士常葉大学環境防災学部准教授）、三重県在住の防災ボランティアとの出会いの中から生まれた、一般市民が独力でも企画・運営できる簡易型の防災図上訓練です。

岐阜県では、地域防災力の向上のためにD I Gを普及させたいと考え、指導者養成研修を実施しています。地域において、あるいは小中学校において、いろいろな機会をとらえ、地域のニーズに応じてD I Gを実施することで多くの方がD I Gを通じて地域の防災について考えるきっかけになり、ひいては災害に強い地域につながるものと考えています。

岐阜県HPでは、「災害図上訓練（D I G）指導者の手引き」を公開しています。

<http://www.pref.gifu.lg.jp/bosai-bohan/bosai/bosaitaisei/jishu-soshiki/dig.data/24tebiki.pdf>

「災害を知る」「まちを知る」「人を知る」

災害を知る・・・防災を考える上でまず必要なのが、自分の地域で起こり得る災害の様相を認識することです。「どこで、どの規模で、どういう被害の発生が予想されるのか？」自分で地図に書き込んでいくうちに、災害をより具体的にイメージできるようになるはずです。

まちを知る・・・地図にはさまざまな情報があります。「まちの構造はどうなっているのか」「危険な場所や注意しなければならない施設は？」地図に具体的な要素を書き込んでいくにつれ、自然と地域を見直し、自分の住むまちがどのようなまちなのかを理解できるようになります。そして、自分のまちの災害に対する強さや弱さがより身近なものとして感じられてきます。D I Gが「わがまち再発見」といわれるのはこのためです。

人を知る・・・D I Gでは「いざという時に頼りになる人はどこにいるのか?」「近所に手助けが必要な人はいないか?」などの情報を地図に書き込んでいきます。この人的な要素の書き込み作業は、まちの「財産目録」を作ることになります。また、しかめっ面ではなく、「ワイワイ、ガヤガヤ」とみんなで災害救援について熱く語り合っているうちに連帯感が生まれ、信頼関係が育まれます。



1 単元名

「命を守る訓練(掃除時間中)」

2 ねらい

- 緊急地震速報発令から20秒以内に「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」安全な場所である「セーフティー・ゾーン」をさがし、自分の身を守る姿勢である「ダンゴムシ」の姿勢を取ることができる。
- 揺れがおさまってから、避難場所である運動場まで、安全な避難経路を自分で選択し、訓練であっても真剣に避難することができる。

3 指導計画

(1) 事前指導

- ①全校集会で、当月中に事前予告無しの地震時避難訓練である「命を守る学習⑥」を行うことを告知する。
- ②訓練のねらいが「いつ、どこで、地震が起こっても、自分の命を守るために安全な姿勢をとったり、より安全な避難経路を判断して避難したりすることができるか」を確かめる学習であることを児童に説明する。
※①②共に映像を用いたプレゼンテーションで行う。

(2) 本時の指導

- ①緊急地震速報受信装置(訓練モード)を携帯端末(スマートフォンやタブレット)から起動させ、一斉放送する。
※設定時間・・・20秒程度
- ②教師は近くの児童の様子を観察し、放送が聞き取れていない児童や、セーフティーゾーンへ移動しダンゴムシの姿勢ができていない児童に「安全な場所で身を守りなさい!」と声をかける。
- ③教頭は「揺れがおさまりました。二次災害に備えて避難しなさい」を放送する。
※地震による停電で放送施設が使用不可の場合はハンドスピーカーを用いる。
- ④避難場所1(運動場/晴天時) 避難場所2(体育館犬走り/雨天時)に避難する。
- ⑤避難経路上に、通行不能箇所を設け「ここは危険であること」を児童に示す。
※立入禁止テープの貼付、または掃除用具ロッカー・長机等を転倒させる。
- ⑥職員は安全な避難経路を判断している児童の様子を観察し、写真や映像に記録する。
※定点固定カメラや動画記録可能な携帯電話などを積極的に活用する。
- ⑦避難場所(1・2共に)にて人員点呼を完了させる。
※教頭→学校長に報告
- ⑧体育館玄関の下足箱に上靴を入れて入場し、整列後に事後指導を待つ。
※体育館玄関に、児童の上履き拭き取り用のタオルを準備する。

(3) 事後指導

- ①体育館や多目的室、ワークスペースなどで今回の訓練について振り返りをする。
- ②大型TVを用いて、セーフティーゾーンへの移動やダンゴムシの姿勢、通行不能箇所を避けての避難経路の選択を行っていた児童を、写真や映像で紹介し、自ら安全な場所や経路を判断した児童を価値付ける。

- ③命を守る学習ファイルに、掃除時間中のセーフティーゾーンや、通行不能箇所がある場合の避難経路について気付いたことと、自分の行動の振り返りを記入する。
- ④本訓練で身に付けさせたいキーワード「セーフティーゾーン」「ダンゴムシ」「シェイクアウト」などの用語と、訓練の様子を掲示物にまとめ、次回の訓練で復習できるようにする。

4 本時の展開

学習内容・学習活動	教師の指導・評価	資料等
1 自分の掃除場所で清掃活動を行う。	・担当者は緊急地震速報受信装置の訓練モードを起動する。	・放送機器と連動した緊急地震速報受信装置。
2 緊急地震速報を聞き、20秒の間にセーフティーゾーンを判断し、ダンゴムシの姿勢を取る。	・児童を観察し、放送が聞き取れていない児童、セーフティーゾーンでダンゴムシの姿勢をとれていない児童に「安全な場所で身を守りなさい！」と声をかける。	・携帯端末
3 二次災害に備えて避難する放送を聞き、避難場所へのより安全な避難経路を判断する。	・二次避難を放送する。 ・通行不能箇所を設ける。 ・児童の様子を観察し記録する。 ・人員点呼を行う。	・定点固定カメラ。 ・写真・動画記録装置
4 避難場所へ集合し学級の仲間の安全を確認し合う。	・映像を用いて、セーフティーゾーンでダンゴムシの姿勢をとることができていた児童を価値付ける。	・避難旗
5 緊急地震速報の放送時に、セーフティーゾーンでダンゴムシの姿勢になることをシェイクアウトすることだと知る。	・パネルを用いて、セーフティーゾーンは、固定されたものがある周辺であること、固定されていないものの周辺では、離れることを指導する。	・大型 TV ・カメラと TV を接続する各種ケーブル (HDMI 等)
6 セーフティーゾーンは「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」場所であることを確かめる。		・セーフティーゾーンを示す映像資料
7 二次災害を避けるための避難では、防災ずきんを取りにもどらない、お・は・し・もの原則があることも知る。		・パネル

5 評価規準

○防災教育の観点

- 【心がまえ】実際に大きな揺れが合った場合は、訓練通りには判断・行動できないことがあり、真剣に訓練に参加している。
- 【知識・理解】通行不能箇所があった場合避難経路を自分で選択し、さらに防災ずきんのある教室が避難経路上にない場合はもどらないで避難場所に向かうことがより安全であると理解している。
- 【考える力】20秒以内に自分の力で移動できる範囲で「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」場所はどこかを探し出すことができる。

1 単元名

「スクールバス緊急時対応訓練」

2 ねらい

- スクールバス運行中（想定）における，大災害時及び非常時の対応が迅速かつ適切に行うことができる。
- 大災害時及び非常時の連絡系統，対応方法が分かる。
- 運行不能及び運行中断を判断した際の対応を確認する。

3 指導計画

(1) 事前指導

- ①スクールバス検討委員会での共通理解と業務分担，対応方法の検討。
- ②（クラス）バス及び乗り物乗車時の安全姿勢について確認を行う。

(2) 本時の指導

- スクールバス運行中に「震度6弱」の地震が発生したことを想定し，走行中の初期対応，連絡系統の確認，対応について実務的に訓練を行う。

(3) 事後指導

- ①スクールバス検討委員会において反省，協議より課題の洗い出しを行い，迅速かつ適切な対応が行えるように検討を行う。
- ②（クラス）訓練を受け，児童生徒の課題に合わせた指導を行う。

4 本時の展開

学習内容・学習活動	教師の指導・評価	資料等
○事前打ち合わせ ・コース毎の児童生徒の情報交換 ・災害想定時の対応の確認。	・想定される生徒の動き，状態の情報を提供・共通理解する。 □マニュアルの正誤性，実対応との流れの必然性があるか。	・生徒の特記事項・配慮事項の会議用資料 ・災害時対応マニュアル (登下校中における災害対応について)
○大地震（震度6弱）発生を想定。 ○緊急地震速報及び，異変（大きな揺れ等）を察知。 【運転手】 ・ハザードランプを点灯させ，道路左側へ安全（後続車，周辺状況，安全な速度）に留意し停車。 【添乗員・児童生徒】 ・添乗員は，安全を確保しつつ，児童生徒へ「安全姿勢」の指示。	・初期的対応の確認を行う。 (児童生徒，交通に配慮した対応) □適切な安全姿勢と指示が端的に行えたか。	・携帯電話での登録

○学校への状況報告（添乗員） - 各バスより状況の報告また、学校において災害情報を入手した際は、学校より各バスへの連絡、状況確認。 ○災害対策本部の緊急設置・対応指示 - 各スクールバス路線との連絡、情報収集・集約、対応指示。 （「登下校中における災害対応について」に従い、対応を行う。） - 学校職員（2人ペア）のスクールバスへの急行を行う。（本部指示） （災害発生時刻、運行時刻表よりおおよその場所を特定） →（学校職員の現地着）対応指示。 ○保護者への連絡 - 保護者への連絡をメール一斉配信及び担任からの電話連絡を行う。 （対応方法、引き渡し場所、時刻等）	- 互いの連絡系統の確認と、連絡手段がない場合の確認を行う。 □災害状況の適切な集約と、バス待機場所の特定が迅速に行えるか。 - スクールバス現地における生徒の掌握と学校間の連携を行う。 ※状況によっては、避難所への移動も考えられる。	- 災害時対応マニュアル - スクールバス時刻表 - スクールバス運行コース図（避難所・連絡先を含む）
---	---	---

5 評価規準

- スクールバス乗車中に地震が起きた時、適切な安全姿勢ができる。（生徒）
- 災害発生時における迅速かつ適切な対応をマニュアルに従って行おうとしている。（教師）

6 その他

【スクールバスによる登下校中における災害対応について】

地震を感じたら、急激にスピードを落とさずハザードランプを点灯し、周りの車両に注意を促した後、緩やかに減速する。

カーラジオ等で地震速報・情報を受信する。

大きな揺れを感じたら、急ハンドル・ブレーキは避け、できるだけ安全な方法で道路状況を確認し、車両を左側等の他の車両の通行の妨げにならない、安全な場所に停止する。

【運行可能な場合】

地震発生後、児童生徒等がパニックを起こさないよう安全に配慮する。

児童生徒等の健康状態、バスの現在地、道路状況等を学校に連絡し、児童生徒を学校に送るか、自宅に帰すか指示を受ける。

運行中は、安全を確認し、学校・警察・消防等の指示を受け走行する。

【運行不可能な場合】

児童生徒等の健康状態、バスの現在地、道路状況等を学校に連絡し指示に従う。

また、警察・消防等の指示があるときは、その内容や停車位置・車内の状況を学校に報告する。

児童生徒等の体調に異変が生じた場合は、学校と協議の上、救急車の出動を要請する。

1 単元名

「命を守る訓練（小中合同）」

2 ねらい

○市総合防災訓練と同日に、小中学校合同で地震発生を想定した「命を守る訓練」を行い、「自分の命を自分で守る」手立てを、体験を通して学習する。

3 指導内容

- ① 地震発生時の命を守る行動を確認し理解する。
- ② 水を注いで 60 分後に食べられる非常食を使い、自分の分を作り食べる体験をする。
- ③ 地震を想定した緊急避難速報（訓練）を発令し、防災ずきんを使用した命の守り方を体験する。
- ④ 地震等の災害時に逃げ込む避難所と、そこまでの避難経路について、体験を通して理解する。
- ⑤ 避難の途中に、登下校中に地震が起きたことを想定して、身の守り方を確認する。
- ⑥ 避難所に到着したらすぐ学級毎に点呼し、誰がいる（いない）か、体調等を確認・把握する。
- ⑦ 地区ごとに集まり直して点呼し、子どもが地区別名簿を作成。（既存の名簿がない状況を想定）
- ⑧ 非常食（ダミー：紙）を地区の代表が、指示された場所に行って必要数受け取り、配る。
- ⑨ 保護者に安全・確実に引き渡す。（本来、災害進展期には引き渡さない。時間がかかってよい。）

4 訓練の過程

時刻等	想定及び教職員の動き	命を守る訓練の流れ	
8：00		市総合防災訓練の緊急地震速報に対して初期動作を行う。	
1・2校時	通常授業		
3校時 学活	学級担任	≪地震発生時の命を守る行動を確認し理解する≫ ・怖いのは ××おちる、たおれる、とぶ・とびちる×× → まず、頭を守る…防災ずきんをかぶる・危険から離れる。 次に、転倒防止のため膝や尻をつく。 ex.棚、ブロック塀から離れる（屋外でも） ex.ガラス窓から離れる（屋外でも） ex.机の下に頭を入れ、机の脚を持つ	①
		・緊急地震速報 数秒～数十秒後に地震が起こる合図 → すぐに、頭を、体を守る…防災ずきん、机等 怖いのは ××おちる、たおれる、とぶ・とびちる××	
		・地震がおさまったら、戸を開けて、逃げ道を確保する。 → 余震などで、戸が開かず、逃げられなくなることがある。 → すでに開かない状態だったら、どうやって開けるか相談。（室内・廊下にいる人がケガしないように壊すこともある。）	

		・校舎内が危険だと判断したら、指定避難所に避難する。 → 持ち出す物を選ぶ。 【食料、水、上着・ジャージ・防寒具】 [防災ずきん、長袖長ズボン、運動靴、タオルなど] [訓練時] 防災ずきん、下校準備（カバンを持つ） → 外で学級ごとに並び点呼する。（存在・ケガ有無確認） （被害が大きい状況では、廊下で並ばずに外へ出る） → 家の近くの指定避難所、一時避難所の確認	
		・××おちる、たおれる、とぶ・とびちる×× に注意する。 → 特に登下校中や避難所への移動中、半壊状態の室内。	
		◎避難所で大切な事。 ・責任者やリーダーの声が聞こえるように静かにする。 ・自分がどこにいるかを確実に周りの人に知ってもらう。 ・指示や配布物のために、玄関周辺をできる限り開けておく。 ・自分と周りにいる人の体調に気を付け、問題があればすぐ報告する。	
		◎非常食の説明をする。水が手に入るときは、食べることが出来る。→ 各自が開封し水を入れる。（60分待って食べる。）	②
		★ 今日の「命を守る訓練」のやりかたを丁寧に説明する。 （避難経路確保までは先生がいないと想定し、自分たちで行動）	
4校時	通常授業		
非常食試食	学級担任	・教室で非常食の試食をする。（水を入れてから60分後）	②
掃除・夕活		・中学生は制服を着用する。	
14:00～ 訓練開始	速報。その後地震発生。その時担任不在を想定し、担任の指示なし。（事前に伝えておく）	・担任「もうすぐ訓練です。先生は教室にいないと考えて行動を。」 ・14:01 校内放送「訓練です。…緊急地震速報の音…（説明なし）」 → 担任の指示なし。頭を守る防災ずきんを着用し机下へもぐる。 ・校内放送「大地震です。揺れています。」or「地震の音」 ・校内放送「揺れが止まりました。」 ※放送機器使用不能を想定。 → 揺れが収まったら、出入り口避難経路確保。余震に備える。	③
14:03～ 校舎外へ避難し点呼。	校舎の壊れ方がひどいと想定。	・担任「校舎がひどく壊れています。余震があると危険です。」 校舎内は危険と判断し避難行動開始する。（本来は子ども自身が判断） → 防災ずきん着用。 訓練なのでカバン・ランドセルを持	④
	・本部旗、救護旗は持ちだせなかったと想定。校長が示した場所が本部。 ・保健主事 or 生徒指導主事 or 教務主任が、引き渡し名簿を持ちだす。	外履きに履き替えて運動場へ避難。学級ごとに並び点呼。 おさない・はしらない・しゃべらない・もどらない ※被害が大きい状況では、並ばずに外へ出る場合も。 ※雨天時は、傘を差し外靴に履き替えて避難する。	

校長判断により、支所への避難行動開始	避難所への移動を校長が判断し担任が指示。 ※状況によっては、上級生が判断し声かけをする	・校長が、「屋外に長時間いることになりそう」or「運動場も危険」と判断 → 支所（避難所）への避難行動を指示する。 ※防災ずきん着用確認…避難行動中、頭・体を守る。 ※小学校は学年ごとに担任が引率する。 ※中学校は学年ごとにまとまって行動する。 ※避難中に、屋外で地震が起きた想定で危険箇所から離れる。	⑤
14:30～支所に入り、学級毎点呼。	支所には一般の方も避難するので、混雑を想定。	・支所についたら、学級ごとに2階の避難可能な部屋に入る。（避難所の運営を考えると出入り口の混雑を防ぐことが大切） → 子どもたちが学級毎に点呼、けが等を確認し、担任に報告する。 - 担任が本部に、子ども・部屋の状況（混み具合等）を報告する。 ※場所はその場で指示。（他の避難者もいる想定） ※担任は、子どもの報告を鵜呑みにせず、必ず自分でも確認する。	⑥
・校長は本部を1階に設置。フリーの職員が、手分けして掲示したり周知したりする。			
全員の安全を確認した後、地区別に集まりなおし、子どもが名簿を作成	両校長で全員の安全確認。引き渡し準備のため地区別に分かれるように指示。 保小中兄弟名簿を持ち出せなかったと想定。	・両校長で全員の安全を確認後、引き渡し準備に入る局面と判断する。 ・地区リーダーを本部に招集し指示する。 → 地区名の掲示物を作成し、各集合場所に貼る。 → 小学生リーダーに声をかけ、協力して、地区別に集合する。 → 中学生は声を掛け合い、先に移動して待つ。 → 小学生は通学班長が集合させ移動し、中学生と合流する。 ※避難所での活動は、すぐ静かにし大切な指示を聞く訓練 ※定めた場所で無理だと判断し変更したら、その事を報告する。 ・地区別に点呼し、地区リーダーが本部（1階）に報告する。 ・地区リーダーに、小中名簿を、作成するよう指示する。 → 引き渡しのための小中名簿を作成し、本部へ提出する。 ※素早さは不必要。確実さこそが大切。作成した名簿が正しいかを地区担当教員が確認。誤りを修正させる。	⑦
非常食等を確実に配布する訓練	教務主任が中学生リーダーを招集し配布。	・非常食等配布訓練…地区リーダーは非常食（ダミー：紙）を指示された場所で人数分受け取り、配る。	⑧

15:00～ 引き渡し	停電のうえ、メールや電話が使えない場合を想定。 ばらばらと迎えに来る保護者等を受付け、該当する子ども達を引き渡し下校。	- 保護者には、15:00～16:00に引き渡すと連絡する。 ※連絡がすぐには取れない場合、長期戦を覚悟し迎えを待つ。 ※指定避難所は安全な場所。急いで引き渡してはいけない。 ※特に、災害進展期には、引き渡し下校をすべきではない。 引き渡し後、保護者等とともに避難所にとどまっていたく。 ※時間がかかることを前提として、あわてず引き渡す。 - 訓練当日の引き渡しは、事前に、迎えが可能かアンケート調査を行い、以下のどれにあたるかを把握しておく。 A グループ＜歩き迎えあり＞……親と帰る B グループ＜歩き迎えなし＞……送り届ける C グループ＜バス通迎えあり＞……親と帰る D グループ＜バス通迎えなし＞……バス下校 - スクールバスは、原則として全線動かす。16:00支所発。 - 支所の駐車場に車を止め、歩いて1階受付まで来てもらう。 - 迎えの方には、必ず受付することを、事前に周知徹底する。 - 受付は、支所1階ロビーあたり。 - 作成した名簿・引き渡しカードで、地区名、子ども兄弟姉妹名を確認し、保護者等に引き渡す。→下校 ※トランシーバーで、受付から各室内へ連絡する。 (緊急時には支所にある5台は原則、災害対策本部で使用。) - 引き渡しカードを作成し、誰になら引き渡してよいかを、事前に把握しておく。(その際、引き渡し可能者に順位を付けない。)	⑨
----------------	---	--	---

5 評価規準

- 様々な状況や場所での命を守る行動をとることができる。(児童生徒)
- 朝8:00の緊急地震速報に対する初期動作及び午後の訓練時の初期動作の様子について、児童一人一人の動きと学びについて把握し、自分で判断して行動がとれるように事後指導に生かそうとしている。(教師)
- 訓練後の防災アンケートの内容を、1学期に実施したアンケートと比べ、一人一人の児童の変容を見届けている。(教師)

1 単元名

「防災訓練（地域合同）」

2 ねらい

- 児童及び教職員が近隣住民と交流することで地域への関心や愛着を高め、地域コミュニティを強化する。
- 児童と自主防災会の方と共同で近隣地域を探検して、防災に関する様々な施設や設備を発見することを通して、災害への備えや身近な危険を考え、防災意識を高める。
- 防災ヘリの存在や活動内容を知る中で防災活動の「公助」についての理解を深める。

3 本時の展開

時間	児童活動内容	教職員活動内容	自主防災会活動内容	備 考
8:15	・朝の会	①近隣自主防災会と対面式		・早朝より消防署、消防団による散水対応 ・司会：教務主任，説明者：研究推進委員長 ・職員駐車場：運動場南 ・乾燥している場合，消防団による散水
8:30	・全児童体育館に移動	・活動の意味，日程の説明をする。	・体育館に地区ごとに整列する。 ・自主防災会代表が挨拶する。	
8:40	・防災パトロール班で整列 ・児童代表挨拶			
8:50	②「公助」の理解(防災ヘリの活動紹介)			・校地周回道路の四隅に消防団。パトロール中，車を止める。
	・映像を視聴し，防災ヘリの意味や活動内容の理解	・防災ヘリ活動内容を紹介する。 ・本日の活動のために消防署，消防団の活動を説明する。	・児童と共に防災ヘリの意味や活動内容を知る。	
9:15	・体育館東に集合	③防災ヘリによる救助救出訓練見学		・防災ヘリは屋上(6年教室上周辺)に要救助者役を降ろし，旋回後，要救助者役を救助する。(約15分間)
9:25	・救助訓練見学。安全ダングル装着。校舎北側道路にて自主防災会とともに	・職員は児童につき，安全に配慮する。(安全ダングル使用)	・校舎北側道路上で児童とともに救助救出訓練見学する。	

9:45	に見学			消防署員 1 名が屋上で待機。1 名が児童につく。
10:00	④防災オリエンテーリング(防火設備等を調べ) - 防災利インターリング 班(14)で朝礼台前集合 - 防災施設、設備の探索 - 班単位で東門・西門から出発。			- 危険個所や交通量の多い場所に立ち、交通安全に気をつけ、児童の安全をはかる。他の職員は巡回する。 - 各グループに 2 名付き添い、児童の安全を確保する。
11:40	⑤近隣自主防災会とのお別れ会 - 対面式の隊形になる。 - 児童代表お礼の言葉			- 立哨職員(学習研究部会 3 名)及び各地区巡回職員(特活研究部会 3 名) - 本部：校長，生活安全研究部会(3 名)
11:55	下校			

4 評価規準

- 近隣住民と交流することで地域への関心や愛着を高めている。
- 自主防災会の方と共同で近隣地域を探検して、防災に関する様々な施設や設備を発見することを通して、災害への備えや身近な危険を考え、防災意識を高めようとしている。
- 防災ヘリの存在や活動内容を知る中で防災活動の「公助」についての理解を深めている。



知っていますか？ 伝統的防災施設

かすみでい わじゅうてい
岐阜県には先人たちの知恵によって作られた霞堤や輪中堤が存在する地域があります！



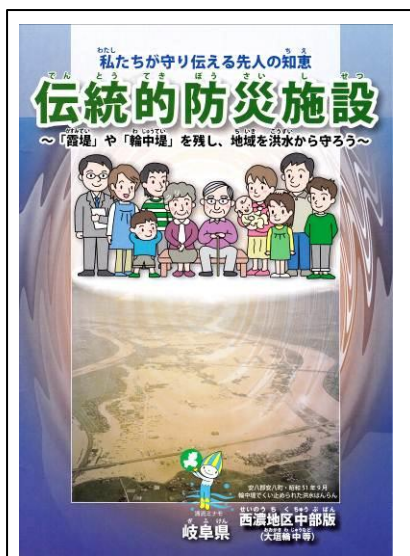
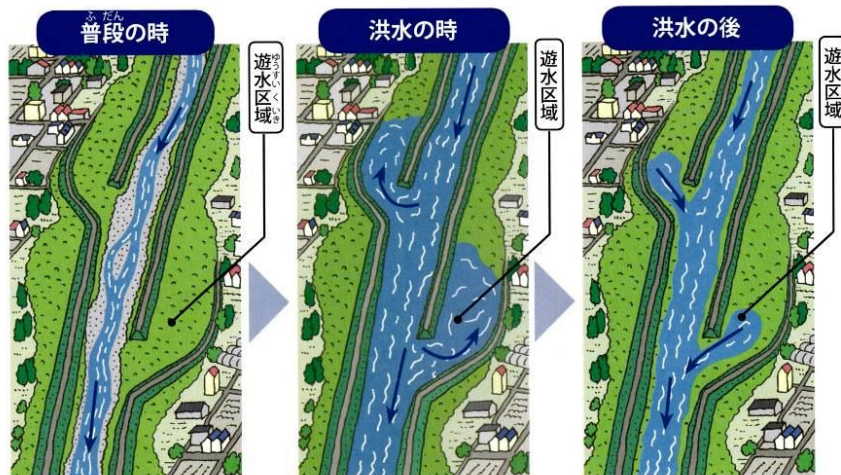
岐阜県では、洪水から県民の暮らしを守るために、これまでに川を広げたり、堤防やダムなどを造ったりしてきました。また、洪水のハザードマップを作成したり雨や川などの情報をメールで知らせたりすることもしてきました。その一方で、最近は集中豪雨がいろいろな場所で発生しており、大規模な洪水が全国各地で起こっています。

こうした大規模な洪水が起こった時の備えとして、先人たちの知恵によって造られた霞堤や輪中堤などの伝統的な防災施設のもつ役割などを知ることが重要になってきています。

岐阜県には霞堤や輪中堤が存在する地域があります。しかし、最近は地域の伝統的な防災施設が忘れられようとしています。これらの伝統的防災施設を守り、次の時代に引き継ぐことが重要です。

かすみでい
霞堤とは・・・

昔の人は堤防にすき間を造り、そこから洪水を入り込ませて、人が住むところで川が氾濫しないようにしました。そのすき間のある堤防のことを「霞堤」といいます。



平成 26 年 6 月 県土整備部 河川課作成
◎西濃地区版・西濃地区中部版・西濃地区南部版
中濃地区版・飛騨地区版があります。

☆伝統的防災施設マップの例

